

## 2. 「きらめき創造館」の運営について

- (1) 「きらめき創造館」に対するコンセプトについて
- (2) 吹田市「夢つながり未来館」・八尾市「生涯学習センター」・松原市「まつばらテラス」を当局が視察され、学ばれたことは
- (3) 当初計画段階において、どの様なコンセプトを持ち設計に至ったのか、開館まで2年有ったが、キッチリとした運営協議会等は設置してきたのか
- (4) 青少年委員会の立上げ経緯と、どの様な内容で取り組んできたのか
- (5) 運営は委託方式となっているが、委託となった場合、委託先のコンセプトを詳細に聞く、今後どの様な形態を考えておられるのか
- (6) 館長は、外部からの公募とし、民間の活力と運営方針を学ぶべきと考えるが
- (7) 国における人生100年構想「人づくり革命」について
  - ① 学び直しのきっかけを作る「リカレント教育 - オープンカレッジ 富田林」の開設を
  - ② 人材育成として、企画立案能力を高める為にも、職員のオープンカレッジ参加を
- (8) 子どもの教育について（ICT・グローバル・AI教育について）
  - ① 2020年よりスタートする「ロボットプログラミング」教育について
  - ② 国際化に伴うグローバル教育の強化について（英語村の開設について）
  - ③ アクティブラーニング（能動的学習）教育の具体化について
  - ④ アート文化について
  - ⑤ きらめき創造館で「将棋教室」の開催を
  - ⑥ 子どもから高齢者、スポーツ選手まで効果のある「ビジョントレーニング」について
- イ. この間小・中学校で取組まれて来た経過と成果について
- ロ. きらめき創造館で展開する事
- (9) 市民に講座の周知を徹底的にすべきと考えるが、その方法について

## 【答弁】

2. 「きらめき創造館」の運営について、順次お答え申し上げます。

はじめに、(1) コンセプトについてでございますが、富田林市きらめき創造館は、次世代を担う、「若者の育成拠点」と位置づけ、青少年をはじめとした市民の皆様の自主的な活動を支援するとともに、生涯にわたる学習活動を促進することを目的とした施設として設置いたしました。

このコンセプトに基づき、地下部分は、階段を観覧席として、「開かれた

発表の舞台」「人が集まる居場所」である交流スペースとして、幅広い活用が可能になっております。地下のスタジオは、防音仕様になっており、バンド演奏、コーラス、ダンス等の練習ができ、市民文化の振興に寄与する施設となっております。

3階の自習室は、個別ブースになっており、将来の目標に向かって、しっかりと学習に取り組むことができるようになっております。

その他、グループ活動室やスタディールームを備え、研修会やミーティングに利用できるなど、本市生涯学習の拠点施設として、地域をはじめ多くの皆様に愛され、活用して頂く施設としての運営をしてまいりたいと考えます。

また、本市における魅力ある施設、魅力を発信する施設の一つとして活性化を図る事も大切な事と考えております。

具体的な例としては、今後急速に進展するグローバル社会において、広く世界で活躍できる若者の育成を目指して、国際的コミュニケーションに必要な語学能力の向上や日進月歩するICT技術の学習など、青少年や市民の皆さまが、興味関心を抱き、実践に役立つような講座等の展開を始め、様々な取り組みを通して、本施設の活性化を図ってまいりたいと考えております。

次に、(2)の他市への視察でございますが、まず、吹田市立子育て青少年拠点「夢つながり未来館」は、「夢・つながりであう場はじまる場ひろがる場」というコンセプトのもと、1階に子育て施設、地下1階に図書館、2階から6階が青少年施設である青少年活動サポートプラザという、市長部局と教育委員会が共存する複合施設でございます。

サポートプラザでは、教育委員会職員が館全体の運営やひきこもり等困難を抱える若者への支援事業などをし、プラザの貸館業務に関しては、指定管理者が行っております。

また、青少年交流活動支援業務といたしまして、地域のNPO団体に事業委託しております。サポートプラザでは、青少年の育成に係る事業として、NPO団体がロビーワークを行い、青少年の相談や話し相手となることで安心して過ごせる居場所づくりをすすめており、学習支援等の事業を行っております。

訪れた際には、ロビーに多くの青少年がおり、地域のNPO団体が自習室の貸出をしたり、子どもたちの話し相手となるなど、サポートプラザスタッフと青少年が自然に交流をすすめる手法をとっており、大いに参考になりました。

次に、「まつばらテラス」でございますが、ミズノスポーツサービス株式会社が指定管理者となっており、「健康・学び・交流づくり」として様々な世代の人が利用できるにぎわいのある施設を目指すというコンセプトのもと各種の運動プログラムや文化事業を実施されております。

そこでは、若年層から高齢者までの幅広い層を対象としたプログラムを展開されており、本市でも参考の一つにしてまいりたいと考えております。

八尾市生涯学習センターについては、誰もがいつでも気軽に立ち寄り、「心や身体の健やかさを高め、自由に学び交流しあう場」というコンセプトからつくられた施設であり、市民の自主的な活動を支援する生涯学習施設であると認識しております。

続きまして（３）当初の計画と運営協議会についてでございますが、きらめき創造館は、この地域の大きな特徴である文教地区としての特性と、駅周辺という立地上の利点を最大限に生かす事が重要と考えます。

そのため、「若者の教育拠点」と位置付け、「若者の育成」、「地域交流の促進」、「生涯学習の推進」を基本方針とし、様々な市民ニーズに対応し、地域の人材を含めた活力を市全体へ広がるよう、新たな公共施設として整備することをコンセプトに、基本設計を進めたものでございます。

施設運営につきましては、特に施設利用の中心となる青少年の意見を広く取り入れ、きらめき創造館運営の参考にするため、一般公募のメンバーで構成した「青少年委員会」を昨年６月に設置し、昨年度は５回開催し、利用方法の検討、利用の手引きの作成や施設の愛称である「トピック」の決定など、利用者の視点から熱心に議論を進めました。

今後、季節イベントの開催、青少年向け講座の企画運営に関わる予定となっております。

また、計画段階において、庁内での検討会議や説明会で、多くの市職員から様々な意見、アイデアを聴取し、基本構想の参考にいたしました。

次に、「運営協議会の設置」につきましては、利用者をはじめ多方面のご意見やご提言をいただくことにより、きらめき創造館における実施事業の推進や検証に効果的であると考えられますので、設置に向けての検討を進めてまいりたいと考えております。

次に（４）青少年委員会についてでございますが、青少年委員会は、先に述べましたコンセプトの実現に向けて、次代の富田林を支え、創る若者が、主体的に新施設の事業を企画・実施する事、また、施設の運用案を市職員と共に考えたりすることにより、新施設をより活気ある施設、青少年に役立つ施設にし、青少年自身の成長につながる事から設置したものであります。

活動内容につきましては、先の答弁とも重なりますが、一般公募により地元の高校生、大学生を中心に約３０名が青少年委員として活動いたしました。

昨年度は、５回開催し、グループワークの中で、新施設の運用や活用方法などについて話し合いをいたしました。そこで出た提案を受け、休館日や開館時間、利用料金など、青少年委員の意見を反映させた「きらめき創造館利用の手引き」を作成いたしました。

施設の愛称「T o p i c」も青少年委員会で考案したものでございます。今年度も約３０名が青少年委員となっており、今後も本館の運用などについて意見を出し合い、事業の企画・実施など、ますます青少年委員会を発展させ、きらめき創造館の活性化に結びつける予定でございます。

次に（５）委託先のコンセプトについてでございますが、本施設は、「若者の育成拠点」「生涯学習拠点施設の一つ」をコンセプトとしており、様々な世代を対象としたイベント・講座の開催や、若者の居場所づくりを提供することが求められております。

今回受託した事業者の「活動に関するコンセプト」でございますが、舞台芸術等を活用した青少年の健全育成、若者がボランティアとして参加する地域イベントの開催、公的イベントへの運営協力など多岐にわたっております。

また、ロビースタッフの配置による若者への居場所の提供、若者が将来の夢や目標を抱くきっかけとなる講座・イベントの開催、若者たちによる交流・地域交流・多世代交流の促進等も事業の柱としております。

また、講座・イベント等の展開につきましては、「まつばらテラス」など他市の事例も参考にしてみたいと考えております。

次に（６）の館長の外部からの招聘につきましては、現在、本施設の運営事業につきましては、専門事業者に委託しており、日々、施設運営や事業企画について協議を進めているところでございます。

館長の外部からの公募についてでございますが、今後、きらめき創造館の運営を進める中で、館長の外部公募の必要性やあり方について、議員ご提案の運営協議会のご意見や他市の状況などを踏まえ、調査研究してみたいと考えております。

続きまして（７）リカレント教育と人材育成についてでございますが、教育委員会といたしましては、若者だけでなく、市民一人ひとりが持てる力を十分に発揮できるようにすることで、より豊かな人生を過ごすことに繋がると考えます。このような中、今注目されている、何歳になっても学び直しを行うことができる「リカレント教育」のきっかけ作りとなる事業の展開に向け、研究を進めてみたいと考えております。また、職員のオープンカレッジ参加は、企画立案能力の向上などに非常に効果的であると考えられるため、今後、関係課と協議を進めてみたいと考えております。

次に（８）の子どもの教育についての①から④でございますが、プログラミング教育、グローバル教育、アクティブラーニングの手法やアートの世界づくりのいずれも、グローバル社会を生き、活躍する若者の育成に、効果的と考えられるため、今後、若者にとどまらず、広く市民向け講座の一環として、多様化する市民のニーズに柔軟に対応できるよう、大学や関係機関と協議を進めながら、研究・検討してみたいと考えております。

特に⑤の「将棋教室」の開催でございますが、将棋ブームの今、タイムリーな企画として、２月１０日（土）、きらめき創造館に女流棋士を招いて、「とんだばやし将棋道場」を開催し、小・中学生や大人とプロ棋士との対戦を計画しております。なお、内容につきましては、１月号広報やウェブサイトなどで広く周知してみたいと思います。

次に⑥のビジョントレーニングについての（イ）（ロ）についてござい

ますが、教育委員会では、これまで自閉症や発達障がい支援の研修など学校現場のニーズに沿った支援教育研修の実施に努めてまいりました。近年、障がいに対する研究が進む中、子どもたちの学習における課題のひとつに「視機能における課題」があることが判明し、その課題解決の一つとして、ビジョントレーニングという手法が提案されるようになりました。

本市でも、支援教育リーディングチームがこれに着目し、一部の支援学級で試行されていきました。また、議員ご提案により、平成27年度から2年間にわたり、国内におけるビジョントレーニング研究の第一人者である北出勝也氏を招へいし、教職員研修を実施しましたところ、学校現場のニーズとその手法の取り組みやすさが相まって、平成27年度には80名、平成28年度には100名を超える教職員の参加がありました。

その後、この取り組みは本市のほとんどの支援学級で実施されるようになり、今では、支援を必要とする児童生徒だけではなく、全ての児童を対象にビジョントレーニングを実施する学校も出てきております。

実際にトレーニングを継続している子どもたちからは、「音読のスピードが速くなった」「板書をスムーズに写せるようになった」などの肯定的な感想が寄せられております。

このようなビジョントレーニングをはじめとする本市支援教育の取り組みは、全国的にも注目を集めており、取り組み内容の問い合わせや国立特別支援教育総合研究所をはじめ、他の自治体からの視察も受けているところであります。

教育委員会といたしましては、今後もビジョントレーニングの有用性を学校園に周知するとともに、それぞれの発達段階に応じたトレーニング方法について、さらに研究と実践をすすめてまいります。また、ビジョントレーニングをきらめき創造館で広く市民向けに展開することにつきましては、小中学校での取り組み実績も踏まえながら、今後、検討を進めてまいりたいと考えております。

最後に（9）本施設での講座の周知につきましては、従来の市広報やウェブサイトでの周知に加えて、パソコン・スマートフォンなどのSNSを活用し、最新情報の発信に努めてまいります。また、市内学校園や公共施設へのポスター掲示やパンフレットの配架を依頼し、より多くの市民の皆様や若者への講座の周知を進めてまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、教育委員会としましては、様々なご意見・ご提案を参考にさせて頂きながら、きらめき創造館を本市の未来を拓く若者の育成拠点と位置づけるとともに、広く市民の生涯学習施設の拠点、また、本市の魅力を発信する施設の一つとして活性化を図って参りたいと考えております。

以上お答えとさせていただきます。